青山幹雄教授の早逝を悼む

深澤良彰 | 早稲田大学

南山大学理工学部ソフトウェア工学科教授の青山幹雄先生が，2021 年 5 月 13 日急逝した．66 歳という若さであった．

青山先生（以下，いつも青山先生が主張されていたように「青山さん」と呼ぶ）は，2018 年 12 月の健康診断により，大腸がんステージ 4 であることが判明した．しかし，その後も，化学療法（抗癌剤治療）を概ね 3 週間間隔で行い，日常的に研究・教育に携わっていた．

略歴にあるように，青山さんは研究者としての表彰も多く受けており，研究者としても卓越していたものの，青山さんが最も素晴らしかったのは，その企画・実現力であった．

たとえば，ソフトウェア工学におけるフラグシップ国際会議は ICSE（International Conference on Software Engineering）であるが，1980 年頃，日本をはじめとするアジア地域からの採録論文は，ごく少なかった．欧州においては，1987 年に第 1 回の ESEC（European Software Engineering Conference）が開催され，多くの論文，参加者を集めた．これらに対して，アジア太平洋地域を中心としたソフトウェア工学の国際会議の実現をと積極的に動いたのが青山さんであった．その実現策は，当時本会が提供していた小規模国際会議という仕組みを利用し，しかも，本会ソフトウェア工学研究会と友好的な関係にあった韓国情報科学学会 KISS（The Korea Information Science Society）のソフトウェア工学研究会とが共催の国際会議を 2 年間

青山 幹雄氏 御略歴

1954 年 6 月 15 日	島根県松江市生まれ
1980 年 4 月～ 1995 年 3 月	富士通株式会社
1986 年 10 月～ 1988 年 9 月	米国イリノイ大学客員研究員
1993 年 10 月	情報処理学会 研究賞 受賞
1995 年 4 月～ 2001 年 3 月	新潟工科大学 工学部 情報電子工学科 教授
2001 年 4 月～ 2009 年 3 月	南山大学 数理情報学部 情報通信学科 教授
2001 年 4 月～ 2005 年 3 月	情報処理学会ソフトウェア工学研究会 主査
2003 年 1 月～ 2007 年 12 月	Chair, Steering Committee, APSEC (Asia-Pacific Software Engineering Conference)
2005 年 4 月～ 2007 年 3 月	情報処理学会 理事
2006 年 1 月～ 2007 年 12 月	Member of Executive Committee, IEEE Computer Society TCSE (Technical Council on Software Engineering)
2009 年 4 月～ 2014 年 3 月	南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 教授
2009 年 5 月	情報サービス産業協会 2009 年度協会賞 受賞
2011 年 9 月～ 2013 年 12 月	Member, IEEE Medal of Honor Committee
2011 年 12 月	APSEC 2011 Best Paper Award 受賞
2012 年 5 月	情報サービス産業協会 2012 年度協会賞 受賞
2012 年～	次世代プロジェクト管理データ交換アーキテクチャ協議会 代表
2013 年 12 月	APSEC 2013 Best Paper Award 受賞
2014 年 3 月～	Chair, OASIS OSLC Lifecycle Integration for Project Management of Contracted Delivery Technical Committee
2014 年 4 月～	南山大学 理工学部 ソフトウェア工学科 教授
2014 年 9 月	情報処理学会 ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2014 企業賞 受賞
2015 年 7 月	IEEE COMPSAC 2015 Honorary Award 受賞
2016 年 9 月	情報処理学会 ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2016 企業賞 受賞
2018 年 9 月	情報処理学会 ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2018 最優秀論文賞 受賞
2018 年 12 月	情報処理学会 ソフトウェア工学研究会 2018 年度功績賞 受賞
2019 年 10 月	情報処理学会 コンピュータサイエンス領域 2019 年度功績賞 受賞
2021 年 5 月 13 日	逝去

に渡って開催することによる土台作りをしてからの実現と，時宜に叶ったものであった．

こうして1994年に開催されたのが，アジア太平洋ソフトウェア工学国際会議（APSEC）である．このAPSECは，その後も順調に成長を続け，COREランキングの評価も「B」に上がり，投稿件数が増大するとともに，投稿がある国・地域も広がってきている．創設以来，毎回一定数の投稿が欧米諸国からあることも評価に値しよう．第28回のAPSECは，2021年12月に台北で開催（コロナ禍によりバーチャル開催となった）されることとなっている．

このAPSECは，我が国において4回開催されているが，その4回目は，第25回のAPSECで，2018年12月奈良で開催された．この場で，「国際会議Asia-Pacific Software Engineering Conferenceの創設に対して」ということで，青山さんをはじめとして佐伯元司先生，玉井哲雄先生，筆者の4名が本会ソフトウェア工学研究会2018年度功績賞を受賞した．この受賞のときは，青山さん自身，余命数年の癌に侵されているとは気づいておらず，今から思ってみると，心から晴れがましかった最後の舞台であったにちがいない．その後，この業績により，2019年10月本会コンピュータサイエンス領域2019年度功績賞も受賞している．

本会に対する青山さんのもう1つの大きな功績は，オブジェクト指向シンポジウムを中心になって創設したことであろう．

オブジェクト指向は，1970年代に誕生し，1990年代になると，ソフトウェア工学のさまざまな分野で応用されるようになってきていた．これを受けて，青山さんは，自ら中心となって，我が国におけるオブジェクト指向に関する研究開発を活性化し，実践の交流の場を提供するために，1995年6月オブジェクト指向シンポジウム95を開催した．

2006年には，ソフトウェア工学全般に対する社会的ニーズの高まりに応じるために，シンポジウム名をソフトウェアエンジニアリングシンポジウム（SES）と改め，より広い領域の研究者・実務者が集う場としたのも青山さんが中心であった．同シンポジウムは，その後も毎年実施され，国内で最も重要なソフトウェア工学研究の発表の場の1つとなっている．

以上，青山さんのソフトウェア工学に関する代表的な業績を挙げたが，これ以外にも，青山さんが興味を持ち，さまざまな活動をしていた分野は，要求工学，ソフトウェアアーキテクチャ学，ユーザビリティ工学，機械学習ソフトウェア工学，Webソフトウェア工学，組込みソフトウェア工学などと幅広い．

青山さんと私が一緒にした最後の仕事は，本会の「認定情報技術者（CITP）」における企業認定であった．青山さんへお願いしたところ，いつものように笑顔でお引き受けいただき，まさか，この審査の途中でお亡くなりになってしまうとは微塵も思っていなかった．

こんな青山さんから，深刻な状況を打ち明けられたのは，2021年5月2日で，これまでの抗癌剤治療ができなくなり，余命2～3か月あるいはもっと短いかもしれないというメールであった．命日は5月13日であり，このメールが来た日から12日間の命しか与えられなかったこととなる．この間も，5月11日までは，病室から学生の指導までしていた．テレビ会議システムとそのバーチャル背景を利用することによって，学生には，いつもの青山さんに見えていたであろう．

青山さんは，自分のやり残したことが多くあったことが残念であったに違いない．たとえば，ある出版社とは4冊の書籍の出版の相談をし，自分の遺産の使い方にも強い意志を持っていた．残された我々は，できる限り青山さんの遺志を引き継ぎ，今後のソフトウェア工学の発展に寄与していかなければならない．青山さんには，これを天国から見守っていてほしい．

なお，お別れの会は，情報技術の発展に一生を捧げた青山さんに相応しい形式として，TV会議システムを用いた「リアルタイムお別れの会」と，Webを用いた「オンデマンドお別れの会」の双方を開催する予定としている．

（2021年6月7日）

深澤良彰（正会員） fukazawa@waseda.jp
早稲田大学理工学術院教授．1900年代後半から青山先生とともに，ソフトウェア工学に関する各種の活動に従事．